

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	1棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	令和元年12月16日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームすいせんの基本理念
 1. 利用者様に寄り添いながら、ゆったりと穏やかに過ごして頂きます。
 2. その人らしさを尊重し、居心地の良い環境の中で、自信や生き甲斐を取り戻して頂けるよう支援致します。
 3. 笑顔の絶えないグループホームの実現を目指します。

基本理念に沿って、利用者様に寄り添いながら、一人ひとりの想いを丁寧に傾聴し、ゆっくりと丁寧な優しい言葉で接し、楽しく穏やかな生活が送れるよう、日々の介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、職員の意欲向上につながるよう職員間の関係構築を図り、また、資格取得を支援している。地域の事業に参加し交流したり、居心地の良い環境づくりに努めるなど、ホームの基本理念の実現に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔を決やさず、想いに寄り添い、生きがいを持って自信につなげている。出来る事は利用者様にさせていただくよう支援している。		毎月の定例会や研修復命で理念の実現に向けた介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ふれあい事業参加やボランティアの方々との交流を楽しんで頂いている。買い物同行等でお店の方と交流をしている。		公民館のふれあい事業参加や、傾聴ボランティアに来所してもらったり、買い物先の地域住民や隣接する学校の児童と交流するなど地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で民生委員の方や地区の方等に報告、連絡し、状況を説明している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、利用者様の状況、説明等を行い、評価、助言をいただいている。		運営推進会議で出た意見をサービスに生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に連絡を取り、新入所者様の受入れ等の連絡やヒヤリハット、事故等の報告を行い、常に相談にのっていただいている。		入居者状況の報告など、町や、必要時には県に相談したり指導を受けるなど関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、職場内研修を行い、外部の研修にも積極的に参加している。利用者の生命、または、身体に危険の可能性がない限り、身体拘束は行っていない。		職員全員が施錠やスピーチロックを含め、身体拘束の弊害について理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が積極的に研修に参加している。研修報告を行い、職員同士で情報を共有し、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の一部は、権利擁護、成年後見制度の研修に参加しており、相談があった場合は、行政につなげられるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学をしていただき、契約時は、管理者が重要事項を説明し、十分理解・納得された上で署名、捺印をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、電話やご面会、サービス担当者会議等でご家族からの要望を伺っている。利用者様からも日々の会話の中から傾聴している。	受診困難時のサポート体制、紙オムツ使用、外食など家族の意見が出しやすいよう工夫し、それらの意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、個人面談を実施している。定例会等を通じて職員の意見を取り入れている。気軽に意見や提案を言えるような雰囲気づくりに努めている。	職員が気軽に意見を出せる雰囲気づくりに努め、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善研修に参加したり、何でも相談できる雰囲気を作ったりしながら、職員からの意見・要望等を可能な限り取り入れることができるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が順番で研修に参加してもらっている。資格のない人は、資格取得の機会を案内している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修に参加し、他の事業所の方々との意見交換や交流できる機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想いを、ゆっくり傾聴しながら、不安な事を少しでも取り除き、要望に沿えるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供を丁寧にご説明し、ご家族の不安や困っている事等、協力出来るように努めている。いつでも自由に、ご面会、外出や外泊できることをご説明し、安心していただいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望、ご本人の希望を伺い、今現在必要としている支援ができるよう努めている。情報収集を行い、当面の介護計画書から本プランにつなげている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食べたり、ゆったりと会話をしたりしている。買い物などにも同行していただいている。掃除や洗濯物干しなどの家事手伝いも一緒に行っていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食支援や行事等、常に連絡を取り合いながら、可能な限り参加していただいている。衣替え等ご家族と協力しながら行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使用していたものや思い出のものなど自由に持ち込んでいただいている。時間や日にちの指定はなく、外出や外泊をしていただいている。自宅周辺にドライブに出掛けることもある。	家族の支援を受けて外出や外泊をしたり、職員と馴染みのスーパーに買い物、花火大会や初詣に外出している。家族や知人との電話や年賀状を通した関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔見知りの方など一緒にテーブルに座っていただき、昔話等をされている。レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり楽しんでいただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設外で会った時は、近況を伺ったりすることもある。いつでも相談して下さいとご家族にお伝えしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、ご本人の想いを言動や表情から読み取っている。情報を全職員で共有し、支援につなげている。		本人及び家族への聞き取りや、本人の表情や言動を観察して思いや意向の把握に努めている。情報を職員間で共有し実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新聞を読む事が日課だった方には新聞をお渡しし読んでもらったりと一人ひとりの生活歴を把握し職員全員で情報共有に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に応じて、一人ひとりの意向を伺った上で、ご自分でできる事を探し、支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い、ケア会議等を活用して介護計画書を作成している。毎月モニタリングを実施し、見直しも行っている。		担当職員が中心になり利用者の状況や思いを話し合い、利用者や家族の意向を組み入れた本人本位の計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、必要な見直しや計画変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿った支援を行い、その都度、個別記録に記入している。定例会等で情報共有し、支援につなげている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を常に伺いながら、自立支援を目標に支援している。訪問看護やデイケアとの連携、福祉用具も活用している。			

宮崎県川南町 グループホーム「すいせん川南」(1棟)

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ふれあい事業に参加したり、傾聴ボランティアの方々との交流を楽しんでいる。園児や踊りの慰問交流も、大変喜ばれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には情報提供書を作成し、かかりつけ医との連携を支援している。付き添いが困難な場合は、職員がガイド対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続し、救急時は協力医受診も可能としている。定期受診は家族の同行によるが、職員同行支援も制度化している。認知症専門受診時は職員も同行し情報提供し、受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携により、一人ひとりの健康管理や医療支援につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し、お薬情報とともに、医療機関に提供している。病院やご家族との情報交換に努め、すぐに対応出来るようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時事前確認書として、ご本人に意思を確認し、ご家族にも終末期に向けた確認をしている。職員は看取りの研修にも参加し、連携体制の整備に努めている。	入居時に説明し方針を共有しているが、状態や意向の変化に合わせて対応している。看取りについては、医師・看護師と連携し、対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防通報訓練、初期消火訓練、心肺蘇生法訓練等、定期的に訓練し身につけている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。緊急連絡網を作成し、全職員が周知している。防災研修に参加し、常に危機感を持ち、意識を高めている。	消防署の指導で防災(火災)訓練を実施し、利用者も消火器の取扱いや避難行動を体験している。防災頭巾やヘルメットを常備し避難場所を決め非常用食品を備蓄している。運営推進委員は見学しているが地域との協力体制は構築されていない。	ホームは2ユニットであり、職員だけの防災体制は十分ではない。平日や夜間など地域の特性を考慮した地域住民との協力体制の構築に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や想いを把握した上で、尊敬の意をもって言葉かけを行っている。お名前を呼び、優しい言葉かけを行っている。		利用者を人生の先輩として敬意をもって言葉かけをしている。排せつ誘導には耳元で声かけをするよう配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言動や表情から、今、何を望まれているのか把握できるよう努めている。分かりやすい言葉かけや、ゆっくりとお話できる時間を確保している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を伺いながら、居室でテレビを見たり、新聞を提供したり、ご本人のペースでゆっくりと過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問理容で美容室の方が訪問して下さり、散髪、整容支援を行っている。更衣時は、可能な限り衣類を一緒に選び、希望を反映している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立を作成し、可能な限り手作りの物を提供している。食事準備、片付け等、出来る事は職員と一緒にしている。		利用者と職員と一緒に食事し片づけたり、また利用者の好みの献立を取り入れるなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックし、個人記録に記入している。一人ひとりの状態を把握し、職員同士で共有している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯洗浄、舌専用のブラシを使い清潔を保っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔をみながら、トイレの声かけ、誘導を行っている。排泄パターンを把握するよう心がけている。ご家族の負担軽減の為に排泄用品の見直しも行っている。		排泄パターンを把握し、トイレへ誘導したり、夜間はポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医に相談しながら服薬調整していただいている。歩行訓練をしたり、水分提供時にオリゴ糖を入れたり、乳製品を毎日取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に応じて声かけを行い、週3回実施している。毎回、順番も検討している。入浴剤やゆず風呂なども楽しんでいただいている。		週3回の入浴日を設けている。順番や入浴剤、音楽など、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って休息していただいている。布団を干したり、カバーを洗濯したりして清潔を保ち、冷暖房の調節をしながら安眠につなげている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で共有し、理解に努め服薬していただいている。名前、日付、本人確認を二重にチェックし、飲み込まれるまで見守り、確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや園芸療法も取り入れ、花や野菜を育てている。一人ひとりの好きな事、できる事を見極め、個別に支援する時間を確保するなどしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食支援、園外レク活動等行っている。ご家族にも参加していただき、戸外では一緒に季節感を味わっていただけるよう支援に努めている。		家族の協力による外出の他に、買い物や散歩、外食、レクリエーション、ドライブなど外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理は難しいため、原則としてご家族にお願いしている。買い物同行時は、会計で利用者様が支払いできるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と一緒に年賀状を書いていたっている。担当職員も挨拶や近況を記入している。年に数回、遠方のご家族から電話があり、自由にお話されている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、リビングや玄関など利用者様と一緒に飾り付けを作ったり、飾ったりしている。温度湿度計を設置し、常に快適に調節している。		ホーム内は空調管理され、過ごしやすい環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に合わせ、陽の当たる暖かい場所を提供したり、テレビを見たり、会話をしたり、ゆったりと過ごしていただいている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものや、思い出の物などを持ちこんでいただいたり、写真なども飾ったりしている。入所時に、新しく買い揃える必要がないことをお伝えしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前プレートを飾ったり、名前を大きく書いた貼り紙をしたりして、ご自分の部屋が分かりやすいよう工夫している。夜間は、廊下に足元灯が点灯し、安全に歩行できるようにしている。			